

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
専修学校熊本YMCA学院		昭和52年3月23日	岡 成也		〒860-8739 熊本県熊本市中央区新町一丁目3番8号 (電話) 096-353-6393		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 熊本YMCA学園		平成5年3月30日	理事長 菅 正康		〒860-8739 熊本県熊本市中央区新町一丁目3番8号 (電話) 096-353-6393		
目的	本学院は教育基本法及び学校基本法に従い、YMCAの精神に基づき、工業、商業事務及び社会福祉の教育を行い、職業もしくは実生活に必要な能力の育成をはかりました、また文化、教養に関する知識、能力向上を図ることを目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
教育・社会福祉	社会福祉専門課程		生涯スポーツ科		平成10年12月21日	無	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2172	1312	48	420	0	440
単位時間							
生徒総定員		生徒実員	専任教員数		兼任教員数	総教員数	
80人		34人	2人		22人	24人	
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験結果、出席状況、授業態度を総合的に評価し、6割以上の評価で単位修得が認定される。		
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月1日～3月31日		卒業・進級条件		進級:該当学年で習得すべき全ての科目について単位の修得 卒業:習得すべき全ての科目について単位修得		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 担任から本人と保護者へ連絡を取り、状況を把握したうえで適切な指導を行う。定期的な連絡も欠かせない。		課外活動		■課外活動の種類 野球・サッカー・バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ダンス・検定・創作 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 健康・スポーツ産業、スポーツクラブなど ■就職率 <sup>※1</sup> : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 93.8% ■その他 平成27年度4月現在 (平成26年度卒業者に関する平成27年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等		水泳指導員 健康運動実践指導者 介護予防運動指導士 キャンプインストラクター レクリエーションインストラクター スキー技能検定3級		
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成26年4月1日 在学者 37名 (平成26年4月1日 入学者を含む) 平成27年3月31日 在学者 36名 (平成27年3月31日 卒業者をを含む)		■中退率 2.7%				
	■中途退学の主な理由 学校生活不適応、進路変更						
	■中退防止のための取組 担任の日常的なサポートに加え、個人面談、三者面談、学院長を含む四者面談を段階を追って実施						
ホームページ	URL: <a href="http://www.kumakomo-ymca.or.jp/vocational/">http://www.kumakomo-ymca.or.jp/vocational/</a>						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本学院生涯スポーツ科は、スポーツクラブやスイミングスクール、医療機関等での運動・スポーツの指導ができる指導者の養成を行うためのカリキュラムの編成を行う。さらに卒業後の職業人として、円滑な業務の遂行ができるよう、必要に応じて周辺知識も取り入れていく。また、業界の求める最新の知識や技術、これから必要となってくるトピックの採用には、実際の職業現場で活躍されている方の意見に耳を傾け、具体的な実習等の連携を通して教育課程に反映させる。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年9月11日現在

名 前	所 属
福島 正継	一般社団法人 熊本県建築士事務所協会 会長
亀浦 正行	(有)オフィス尚 代表取締役
熊本 哲朗	熊本YMCA学院 建築科 学科長
井上 真二	有限会社スイス 管理課長
下條 寛二	税理士法人近代経営 専務取締役
中尾 陽子	熊本YMCA学院 経営ビジネス科 学科長
松山 陽子	向陽台病院 法人局長
福島 英生	熊本診療情報管理懇話会会長(熊本県立大学教授)
藤森 美幸	熊本YMCA学院 医療事務管理学科 学科長
林田 美恵子	コミュニケーショントレーニングセンター代表
西村 浩二	熊本ホテルキャッスル 取締役販売支配人
光永 尚生	熊本YMCA学院 国際ホテル科 学科長
橋本公雄	熊本学園大学 社会福祉学部教授
福島貴志	NPO法人 IOBスポーツ推進事業団 理事長
横山 純一郎	熊本YMCA学院 生涯スポーツ科 学科長
吉岡 久美	九州看護福祉大学看護福祉学部社会福祉学科准教
神山 博行	合同会社 living space 有料老人ホーム デイサービス 縁(えん)小島
吉田 しのぶ	熊本YMCA学院 老人ケア科 学科長
永野 典詞	九州ルーテル学院大学 人文学科 子ども専攻 教授
緒方 健一	慈愛園子供ホーム 園長
西本 愛	熊本YMCA学院 児童福祉教育科 学科長
岡 成也	熊本YMCA学院 学院長

(開催日時)

第1回 平成27年7月30日 18:30~20:30

第2回 平成27年9月 7日 18:30~20:30

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本学院、生涯スポーツ科では、運動・スポーツを通して人々の健康や生きがい作りの手助けができる人材育成の為に、講義や実技においては、健康・スポーツ産業で活躍しているコーチやインストラクターを講師に招き授業を行う。また、実習においては、スポーツクラブや企業、運動施設と連携し、現場での職場実習を行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
職場実習	スポーツクラブや健康運動施設における、指導、接客・サービスの基本を学ぶ	社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院等
内部実習	関連施設のスポーツクラブにおいて、幼児体育指導について、現場にて実習を行う。また、受付業務や電話対応、保護者対応について学ぶ	公益財団法人 熊本YMCA
スポーツ実践講座Ⅰ	子どもたちへの運動・スポーツの指導法について実践の中で学ぶ。指導法や補助の仕方、グループ指導について学ぶ	公益財団法人 熊本YMCA
スポーツ実践講座Ⅱ	子どもたちへの運動・スポーツの指導法について実践の中で学ぶ。指導法や補助の仕方、グループ指導について学ぶ	公益財団法人 熊本YMCA

### 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教職員研修規定に基づき、教員は専門科目の実務に関する知識や技術、またその教授法について、さらに、多様化する学生への指導などに対する研鑽を深めるために、定期的及び継続的に研修・研究の機会を持つ。常に研修研究を通して新しい情報を収集し、職業現場をめざす学生に時勢に沿った適切な授業内容を提供することが必要である。実際に職業現場において求められる人物像を正しく理解するために、生きた情報を指導者が得る機会を持ち授業の改善に役立てるものとする。特に、現場担当者や有識者の講演会等や学会、指導者同士の情報交換等により授業力の向上につながることから、積極的な参加を勧める。

近年、特に多様化し学生間の学力に大きな開きが見られることから、教員の指導力は今後ますます柔軟性が求められる。専門分野に限らない指導力をも学校としての研修と位置付け、学生対応や授業展開の改善に役立てたい。

### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年9月11日現在

名前	所属
村上 泰浩	崇城大学 工学部 建築学科 教授
本田 仁美	卒業生、在校生の保護者
横山 孝一	(株)コッコファーム 人事課長
本田 あずさ	熊本市市民病院 診療情報管理士
櫻井 孝一	ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ社長兼CEO
大塚 永幸	公益財団法人熊本YMCA
跡部 尚子	特別養護老人ホーム くわのみ荘 理事長
三森 美香	児童養護施設 愛隣園 主任保育士

(学校関係者評価結果の公表方法)

[URL:http://www.kumakomo-ymca.or.jp/vocational/](http://www.kumakomo-ymca.or.jp/vocational/)

### 5. 情報提供

(情報提供の方法)

[URL:http://www.kumakomo-ymca.or.jp/vocational/](http://www.kumakomo-ymca.or.jp/vocational/)

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程生涯スポーツ科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			朝の読書Ⅰ	10分間の読書を行い、集中力を高める。また、学院生活全般がスムーズに進むように、連絡事項や情報提供を行う	1・前	24	1	○			○	○			
○			朝の読書Ⅱ	10分間の読書を行い、集中力を高める。また、学院生活全般がスムーズに進むように、連絡事項や情報提供を行う	1・後	24	1	○			○	○			
○			朝の読書Ⅲ	10分間の読書を行い、集中力を高める。また、学院生活全般がスムーズに進むように、連絡事項や情報提供を行う	2・前	24	1	○			○	○			
○			朝の読書Ⅳ	10分間の読書を行い、集中力を高める。また、学院生活全般がスムーズに進むように、連絡事項や情報提供を行う	2・後	24	1	○			○	○			
○			キリスト教学Ⅰ	キリスト教の基本を聖書に基づき学ぶ。また、生きる意味や愛について学ぶ	1・前	24	1	○			○		○		
○			キリスト教学Ⅱ	キリスト教の基本を聖書に基づき学ぶ。また、生きる意味や愛について学ぶ	1・後	24	1	○			○		○		
○			キリスト教学Ⅲ	キリスト教の基本を聖書に基づき学ぶ。また、生きる意味や愛について学ぶ	2・前	24	1	○			○		○		
○			キリスト教学Ⅳ	キリスト教の基本を聖書に基づき学ぶ。また、生きる意味や愛について学ぶ	2・後	24	1	○			○		○		
○			サービス・マナーⅠ	社会人としての必要なマナーを身につける。また、いろいろな場面における対応を、講義とロールプレー形式で学び、対人関係の大切さを習得する。	1・前	24	1		○		○			○	
○			サービス・マナーⅡ	社会人としての必要なマナーを身につける。また、いろいろな場面における対応を、講義とロールプレー形式で学び、対人関係の大切さを習得する。	1・後	24	1		○		○			○	
○			サービス・マナーⅢ	社会人としての必要なマナーを身につける。また、いろいろな場面における対応を、講義とロールプレー形式で学び、対人関係の大切さを習得する。	2・前	24	1		○		○			○	

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程生涯スポーツ科) 平成27年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			サービス・マナーⅣ	社会人としての必要なマナーを身につける。また、いろいろな場面における対応を、講義とロールプレー形式で学び、対人関係の大切さを習得する。	2・後	24	1		○		○			○		
○			キャリアセミナーⅠ	サービス接遇検定3級問題を行いながら、キャリアカウンセルを行う。	1・後	24	1	○			○				○	
○			キャリアセミナーⅡ	サービス接遇検定2級問題を行いながら、キャリアカウンセルを行う。	2・前	24	1	○			○				○	
○			コミュニケーション&コーチング	スポーツ指導者として必要のコーチングの基礎やスキルを学ぶ。グループワークを通じ、人間関係トレーニングを行う。	1・前	24	1		○		○				○	
○			文書技法Ⅰ	日常性の高い、漢字力・言語力のトレーニングを行う。社会人に必要なビジネス文書や作文の作成を行う	1・前	24	1	○			○				○	
○			文書技法Ⅱ	日常性の高い、漢字力・言語力のトレーニングを行う。社会人に必要なビジネス文書や作文の作成を行う	1・後	24	1	○			○				○	
○			基礎ゼミⅠ	基礎学力の向上と就職試験に向けた、一般常識の向上を目指す。時事問題や社会的な事象にも目を向け、総合的な学びを行う	1・前	24	1	○			○				○	
○			基礎ゼミⅡ	基礎学力の向上と就職試験に向けた、一般常識の向上を目指す。時事問題や社会的な事象にも目を向け、総合的な学びを行う	1・後	24	1	○			○				○	
○			基礎ゼミⅢ	基礎学力の向上と就職試験に向けた、一般常識の向上を目指す。時事問題や社会的な事象にも目を向け、総合的な学びを行う	2・前	24	1	○			○				○	
○			基礎ゼミⅣ	基礎学力の向上と就職試験に向けた、一般常識の向上を目指す。時事問題や社会的な事象にも目を向け、総合的な学びを行う	2・後	24	1	○			○				○	
○			コンピュータⅠ	基本的なコンピュータの知識を学ぶ。ワードを中心とした文書作成能力の向上を図る	1・前	24	1		○		○				○	

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程生涯スポーツ科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			コンピュータⅡ	エクセルを中心とした表計算能力の向上を図る	1・後	24	1	○			○			○	
○			コンピュータⅢ	ワードを中心とした文書作成能力の向上を図る	2・前	24	1	○			○			○	
○			コンピュータⅣ	パワーポイントによるプレゼンテーション作成能力の向上を図る	2・後	24	1	○			○			○	
○			就職対策Ⅰ	自己分析や自己理解を通じ、キャリアビジョンの作成を行う	1・前	24	1	○			○			○	
○			就職対策Ⅱ	履歴書の作成や自己PRの作成などを中心に行う	1・後	24	1	○			○			○	
○			就職対策Ⅲ	就職活動の流れについて学び、就職活動や試験がスムーズに進むよう、理解を深める	2・前	24	1	○			○			○	
○			就職対策Ⅳ	就職試験に向けた準備を行う。試験対策や面接、報告書の作成などを行う	2・後	24	1	○			○			○	
○			教養講座Ⅰ	総合的な学びの時間として、「いのち」「禁煙教育」などを行う	1・前	24	1	○			○			○	
○			教養講座Ⅱ	総合的な学びの時間として、学院祭（前進祭）の準備を中心に行う	1・後	24	1	○			○			○	
○			教養講座Ⅲ	総合的な学びの時間として、「環境教育」「ボランティア」について学ぶ	2・前	24	1	○			○			○	
○			教養講座Ⅳ	総合的な学びの場として、海外研修の事前学習や平和教育などを行う	2・後	24	1	○			○			○	
○			検定対策Ⅰ	日本語、サービス接遇、硬筆検定に向けての対策授業とし、選択科目となる。	1・前	24	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程生涯スポーツ科) 平成27年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			検定対策Ⅱ	日本語、サービス接遇、硬筆検定に向けての対策授業とし、選択科目となる。	1・後	24	1	○			○			○		
○			スポーツと解剖学	安全で健康なスポーツ活動をサポートするため、機能解剖学について学びを深める。呼吸循環器系、骨格筋について理解する	1・前	24	1	○			○				○	
○			運動障害と予防	運動障害のメカニズムについて学び、その予防法や適切なトレーニング方法について学ぶ。テーピングの実践を通して、怪我の予防について学ぶ。	1・後	24	1		○		○			○		
○			生涯スポーツ概論	運動・スポーツを社会学的な視点からとらえ、生涯スポーツという幅広い概念を包括的に学ぶ。また、ライフステージごとのスポーツの必要性役割について学ぶ。	1・前	24	1	○			○			○		
○			スポーツ経営管理	プロスポーツのマネジメントやスポーツ産業の現状について学び、スポーツ経営に関する基礎知識を習得する。	1・後	24	1	○			○			○		
○			運動生理学Ⅰ	運動指導者に必要となる基礎的な身体の仕組みを理解し、それに伴う運動の整理及びスポーツバイオメカニクスの指導法への応用を学ぶ	2・前	24	1	○			○			○		
○			運動生理学Ⅱ	運動指導者に必要となる基礎的な身体の仕組みを理解し、それに伴う運動の整理及びスポーツバイオメカニクスの指導法への応用を学ぶ	2・後	24	1	○			○			○		
○			スポーツ実践講座Ⅰ	体操の初心者指導を学ぶ	1・前	24	1				○	○		○		
○			スポーツ実践講座Ⅱ	体操の指導法を学び、機能解剖を学ぶ	1・後	24	1				○	○		○		
○			スポーツ実践講座Ⅲ	球技の初心者指導の指導実践を行う	2・前	24	1				○	○		○		
○			スポーツ実践講座Ⅳ	球技の指導を行い競技力向上を指導実践にて行う	2・後	24	1				○	○		○		
○			水泳Ⅰ	2年次に実施される、日本水泳連盟認定の基礎水泳指導員養成の資格合格を目指し、4泳法とその指導法を学ぶ	1・前	24	1				○	○		○	○	



授業科目等の概要

(社会福祉専門課程生涯スポーツ科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			水泳Ⅱ	2年次に実施される、日本水泳連盟認定の基礎水泳指導員養成の資格合格を目指し、5泳法とその指導法を学ぶ	1・後	24	1			○		○		○	○
○			水泳指導の理論と実際Ⅰ	日本水泳連盟認定、基礎水泳指導員養成講習カリキュラムの実施と、水中運動やその指導法について学ぶ	2・前	24	1		○			○		○	
○			水泳指導の理論と実際Ⅱ	日本水泳連盟認定、基礎水泳指導員養成講習カリキュラムの実施と、水中運動やその指導法について学ぶ	2・後	24	1		○			○		○	
○			健康づくりと運動プログラムⅠ	運動の必要性と運動不足の影響について学び、ストレッチングの理論指導法について実践を交え、理解を深める	1・前	24	1		○			○			
○			健康づくりと運動プログラムⅡ	有酸素運動と無酸素運動について学び、エアロビックエクササイズの理論と実践を行う	1・後	24	1		○			○		○	○
○			健康づくりと運動プログラムⅢ	生活習慣病について理解を深め、運動処方のやり方について学ぶ。特定健診・保健指導について運動指導者の役割について学ぶ	2・前	24	1	○				○		○	
○			健康づくりと運動プログラムⅣ	生活習慣病について理解を深め、運動処方のやり方について学ぶ。特定健診・保健指導について運動指導者の役割について学ぶ	2・後	24	1	○				○		○	
○			レクリエーションⅠ	生活を豊かにする「楽しみ」や「生きがい」を通じる活動として、レクリエーション支援を学ぶと同時に、様々な活動を通してコミュニケーションスキルを高める	1・前	24	1		○			○		○	
○			レクリエーションⅡ	生活を豊かにする「楽しみ」や「生きがい」を通じる活動として、レクリエーション支援を学ぶと同時に、様々な活動を通してコミュニケーションスキルを高める	1・後	24	1		○			○		○	
○			野外教育Ⅰ	野外活動の現状を把握し、今日的意義及び必要性について理解を深める。また、自然の中での生活技術や基本的な技術の習得を目指す。リスクマネジメントやメンバーのカウンセリングについて、グループワークを通じて学ぶ	1・前	24	1	○				○		○	
○			野外教育Ⅱ	環境教育や気象、登山技術について学びを深める。また、シーズンスポーツであるスキーについての基礎を学ぶ。	1・後	24	1			○		○		○	○
○			トレーニングⅠ	スポーツに求められる体力の要素を知り、様々なトレーニング方法についての知識と実践能力を高める	1・前	24	1		○			○		○	○

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程生涯スポーツ科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			トレーニングⅡ	スポーツに求められる体力の要素を知り、様々なトレーニング方法についての知識と実践能力を高める	1・後	24	1		○		○			○	○
○			介護予防の理論と実際	介護保険の基礎知識と、介護の基礎を学ぶ。また、介護予防の運動指導の現場を知る。	1・後	24	1	○			○			○	
○			リハビリテーションの理論と実際	リハビリテーションの基礎知識と基礎技術を、理論を実践を通じて学ぶ	2・前	24	1	○			○			○	○
○			パフォーマンス実践講座Ⅰ	ダンスエクササイズの体験と、踊る楽しさを通じた健康づくりについて学ぶ	1・前	24	1			○	○			○	
○			パフォーマンス実践講座Ⅱ	ダンスエクササイズの体験と、踊る楽しさを通じた健康づくりについて学ぶ	1・後	24	1			○	○			○	
○			パフォーマンス実践講座Ⅲ	ダンスエクササイズの体験と、踊る楽しさを通じた健康づくりについて学ぶ	2・前	24	1			○	○			○	
○			パフォーマンス実践講座Ⅳ	ダンスエクササイズの体験と、踊る楽しさを通じた健康づくりについて学ぶ	3・後	24	1			○	○			○	
○			健康運動実践指導者受験対策Ⅰ	健康・体力づくり事業財団認定の、健康運動実践指導者資格試験に向けた受験対策	1・後	24	1	○			○			○	
○			健康運動実践指導者受験対策Ⅱ	健康・体力づくり事業財団認定の、健康運動実践指導者資格試験に向けた受験対策	2・前	24	1	○			○			○	
○			健康運動実践指導者受験対策Ⅲ	健康・体力づくり事業財団認定の、健康運動実践指導者資格試験に向けた受験対策	2・後	24	1	○			○			○	
○			健康運動実践指導者実技対策Ⅰ	健康・体力づくり事業財団認定の、健康運動実践指導者資格試験に向けた受験対策	2・前	24	1			○	○			○	
○			健康運動実践指導者実技対策Ⅱ	健康・体力づくり事業財団認定の、健康運動実践指導者資格試験に向けた受験対策	2・後	24	1			○	○			○	

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程生涯スポーツ科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			高齢者運動指導の理論と実際Ⅰ	日本YMCA同盟認定の、介護予防運動指導士資格取得に向けた授業。理論と実技を行う	2・前	24	1			○	○			○	○
○			高齢者運動指導の理論と実際Ⅱ	日本YMCA同盟認定の、介護予防運動指導士資格取得に向けた授業。理論と実技を行う	2・後	24	1			○	○			○	○
○			登山実習	野外教育で学んだ知識を活かした登山の実践。	2・後	24	1			○		○	○		
○			内部実習	関連施設のスポーツクラブにおいて、幼児体育指導について、現場にて実習を行う。また、受付業務や電話対応、保護者対応について学ぶ	1・後	24	1			○		○		○	○
○			教養講座V	ホノルルマラソンへのチャレンジと完走を目指す。平和教育、ホノルルYMCA訪問を通じて、異文化体験と海外のフィットネスクラブ事情を学ぶ	2・後	24	1			○		○	○		○
○			救急法	基本的な救急法の学びと、心肺蘇生法の習得。スポーツの指導現場で起こりうる救急事故について学び、適切な手当てができるような技術を身につける	2・後	24	1			○	○			○	
○			キャンプ実習	グループワークを用いた組織キャンプの体験	1・後	24	1			○		○		○	○
○			スキー実習	全日本スキー連盟スキー技能検定3級取得のための技術の向上と検定試験の実施。初心者指導法について学ぶ	1・後	24	1			○		○		○	
○			海洋スポーツ	海洋スポーツの体験と、初心者指導法について学ぶ	2・前	24	1			○		○		○	
○			職場実習	机上の学びを実践に活かし、就職希望先にて、運動指導者としての指導法や実際の指導を学ぶ。また、社会人としての基本的なマナーや業務について理解を深める	1・後	24	1			○		○		○	○
合計			84 科目		2 2 2 0 単位時間 (							9 6 単位)			
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
2152単位時間94単位取得で卒業要件を満たす。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				1 2週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。